

## Case6：精神障害（清掃業で働く事例）

社会福祉法人多摩棕櫚亭協会 ピアス

### 1. 対象者の概要

Aさんは17歳の時にうつ病と診断され、高校を3年で中退しました。その後通信教育で卒業資格を取得し、アルバイトを転々としましたが、いずれも長続きしませんでした。結婚をするために製造業に正社員として就職しましたが、就業中に突然倒れてしまいそううつ病と診断されました。なんとか仕事を続けていましたが、限界を感じ離職になっています。その後もなかなか復調せず、離婚、実家に戻り10年ほど入退院をくりかえすようになっていきます。両親が体調を崩したことをきっかけに『このままではいけない』とハローワークに相談し、ピアスを紹介され入所に至りました。

Aさん概要□	
性別□	男性□
年齢□	当時39歳□
障害状況□	そううつ病(精神保健福祉手帳2級)□
利用期間□	就労移行支援事業所□ 2011年7月～2012年11月(1年4ヶ月)□
利用までの経過□	17歳で発病。高校中退後アルバイトを転々としたが結婚を契機に正社員に。就業中に突然倒れそううつ病の診断。病状悪化し、離婚、自宅に閉居。軽快悪化を繰り返し、両親の体調不良をきっかけにHWIに相談、ピアスを紹介された。□

### 2. 支援経過

#### ①作業訓練と職場体験実習

ピアスでは厨房、清掃、事務補助など様々な職種、作業環境の訓練を行っています。作業遂行力を高めるだけでなく、自分にとっての『得意・不得意』を見つけることを目的としています。

#### ②就労プログラム

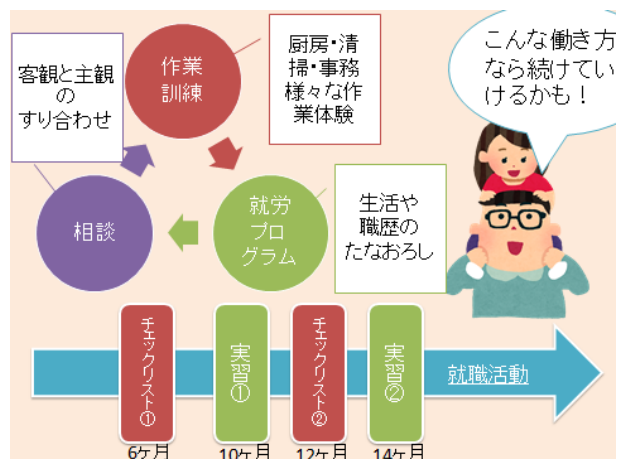
**就労プログラム**では障害や疾病に関する基礎知識、障害者雇用について、履歴書や模擬面接の就職活動の練習などのオープン就労に関する学習を行っています。さらに生活面や職歴、ストレスコントロール、対人関係などの自分自身についてのたなおろしを行っています。最終的にはナビゲーションブック（自分についての説明書のようなもの）を作り、自分自身で他人に伝えられるようになることをめざします。

#### ③面接相談とチェックリスト

面接相談では作業訓練やプログラムなどを振り返り、訓練の進捗や目標の設定などを行います。利用6ヶ月、12ヶ月を目安に『**職業準備性チェックリスト**』を使い本人・職員が共に評価していきます。

#### ④Aさんの場合

Aさんは2011年7月から週に3日、半日の利用



から訓練を開始しました。10年以上のブランクがあるということで体力や生活リズムが課題でした。また主治医からも『前のめるように仕事をしてしまう』と過度な働き方や考え方があることがわかりました。Aさんは訓練と同時に、お子さんの世話、教育などの『父親としての役割』を担っていて、仕事と家庭とのバランスも崩れがちになっていました。

半年経過時には利用時間を半日から1日に増やした結果『手順を抜かしてしまう』などのミスが出てきました。そのことにAさんは焦り、立ち眩みなどの症状の悪化につながっています。さらにビジネスマナー講習で思ったような振る舞いができなかったことが契機で、欠勤が続きました。ピアスへ復帰することはできましたが、主治医から『50%の余力を残すように』と言われ、頑張ってしまう傾向が改善しないでいました。

Aさんはもともと事務職を希望していましたが『作業内容が変わるたびに緊張する』『人に話しかけるのが苦手』『字を書くのもプレッシャー』と感じるようになり、『一人でコツコツ取り組める』清掃のような仕事が自分には合っているのではと感じるようになっていました。そこで訓練も清掃を中心に行うようにしたところ、睡眠が徐々に改善し、勤怠も安定するようになりました。

その後、職場実習として法人内の喫茶店『トゥリニテ』、高齢者施設『くにたち苑』で実習を行いました。1日6時間、週に30時間の労働を希望していましたが、実習を行っているうちに生活とのバランスが取れるのは1日4時間程度の労働であることがわかり、就職のイメージができるようになってきました。

### 3. 企業の概要

B社は関東に本社・工場を主要3都市に営業所を持つ部品メーカーです。知的障害者の雇用実績はありましたが、精神障害者を雇用するのは初めてでした。

就職活動は障害者就業・生活支援センターと連携をし、ピアスは面接相談の継続、本人に把握のための情報提供を役割分担としました。そして実習の後、2012年11月に入社しています。

製造業B社の概要	
業種	情報通信機器用、産業機器用機器の製造
雇用形態 労働条件	パート社員
	就業時間 10:00~16:00
	休日 土・日・祝日
	職種 清掃

### 4. マッチング

事前にAさんについての情報提供をB社にしており、短時間の勤務からスタートすることができました。さらに実習を行う中で、廊下などの共有部は他の社員とすれ違う機会が多く緊張感を伴うため、慣れるまではトイレ清掃などの集中できる環境での作業を中心に行いました。しかし、社員の退職などの理由で会社か

① 1日4時間の短時間から始めたい

② 人がいるところは緊張するなあ

③ きちんと作業できているかが不安

④ 頼まれると断れないんです


⑤ 新しいことはなかなか慣れなくて

① まずは4時間から始めましょう！

② トイレ清掃を中心にしよう！

③ 日誌にフィードバックするよ

④ ⑤ 仕事を変えたい時は支援者を通じて伝えるね



ら『この先、余裕があったら〇〇もやってほしい』などの曖昧な指示が出ることもあり、Aさんは『雑談なのか依頼なのかわからない』と困惑してしまうことが起こりました。その際には改めて本人特性を伝え『B社→Aさんではなく、B社→支援者→Aさん』というパターンを確認することで、本人が混乱することもなく会社と良好な関係が取れるようになりました。

## 5. 定着支援

作業に慣れ仕事面では安定していましたが、お子さんの学習面のフォローでの肉体的な疲れ、将来的な心配でのストレスが理由で、ライフワークバランスが崩れ、調子を悪くすることがありました。必要に応じて面接相談を行っています。その中で、仕事を維持するためにも『父親として関わるのではなく、見守る』と視点を変えることができるようになり、現在は障害者就業・生活支援センターが月1回の定期面談で近況など確認するのみで、安定して出勤できており5年目を迎えています。

## 6. まとめ

今回のケースを通じて感じた事は

- ①その人の物語(価値観や考え方、どう生きてきたか)を理解する事
- ②葛藤があることを理解する事
- ③歩調を合わせ、押し付けにならない事
- ④自らが気付ける環境を設定すること

の4点です。

Aさんは中途障害であり、病前と病後によって能力や状況に大きなギャップがありました。本来は大人として、社会人として、父親として『こうあるべき』や『こうありたい』という一般的な価値観やご本人の希望と、現実の『出来ない自分』との差に悩み葛藤しました。ピアスはただ訓練の計画や評価をするだけではなく、Aさんの想いに共感しながらも、自分自身の現状に気付けるような場面を設定してAさんの気づきを促していています。ですが、上手くいくばかりではありません。時には迷ったり、気持ちが変わったりすることに付き合う事も必要なことでした。

そうしてAさんが現状と折り合う事ができるようになりました。そのことを支えられる関係性をピアスが作れたことも大事なことだったと思います。

それは今回のケースだけでなく、多くの精神障害者の支援に共通する事なのではと思います。